



Taisei Rotec Corporation



Sustainability

持続的成長を実現していくために、 私たちは未来に向けて挑戦します

代表取締役社長 西田義則

サステナビリティとは、「環境」「社会」「経済」の3つの観点で調和を取り、長期的に継続できる世界を築いていくという考え方です。当社は長年にわたり、「自然と社会と人に深くかかわる企業として、人々のためによりよい環境を創造する」という企業理念のもと、成長を続けてまいりました。これからも持続可能な社会の実現に向けて、「世のため、人のため」の企業として、省エネ・CO₂削減技術の研究開発、循環型社会への貢献など、環境に配慮した事業展開を行い、地域社会との連携を通じて、社会的責任を果たしてまいります。

中期経営計画(2021~2023)の目標達成に向けて

持続的成長を目指すため、2021年度から始まった「中期経営計画(2021~2023年度)」の最終年度となる今年は、極めて重要な年となります。

基本方針

- 「世のため、人のため」の企業として社会に対する責務を果たすために、企業・経営・行動の各理念に立ち寄り、コンプライアンスを基軸とした事業活動を「責任と信用」を第一に「進一層」の精神で強力に推進していく。
- 「名実ともに業界No.1」への道程として、持続的成長を実現することで過去最高利益を更新し、スーパーゼネコン系道路会社で「No.1」、社員の処遇も「No.1」を目指す。
- 社員一人ひとりが主役の企業に
社員一人ひとりの個性を生かせる企業に
社員一人ひとりがこの会社でよかったと思える企業に
夢のある企業へ

重点施策

- 1 人材の獲得及び育成**
「企業は人なり」の実践
- 2 本業の回復・目標利益の達成**
本来の本業の姿に戻す戦略
- 3 新規事業の収益化**
早期の収益化とカーボンニュートラルに向けた取り組みの推進
- 4 技術開発の推進**
将来への飛躍を目指し、夢のある技術の開発
- 5 安全・環境・品質の向上**
社会からの信頼の獲得
- 6 グループ力の強化**
最強のグループ構築

サステナビリティへの取り組み

Sustainability Development 持続可能な発展に向けて

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、大成建設グループで策定された「TAISEI Green Target 2050」に基づき、当社は温室効果ガス実質ゼロを目指しています。工事部門と合材部門では、CO₂排出削減効果の高い重機の選定や、アスファルトプラントの中温化(低炭素)アスファルト出荷対応に向けた設備の更新、重油からガスへの燃料の転換などを進めています。また、オフィス部門でも、エネルギーのさらなる削減やペーパーレス化など、TAISEI Sustainable Action(大成建設グループ全体の環境負荷低減活動)に選定された項目に基づき、取り組んでいます。

2017年から開始した中小水力発電事業は、大成建設グループの創業者である大倉喜八郎翁の生誕地である新潟県新発田市の石川川で、2024年度中の本格稼働を目指しています。この事業により、二酸化炭素を発生させないグリーンエネルギーを供給し、より持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

さらに、創立60周年の記念事業として計画された「大成建設グループ次世代技術研究所」である幸手研究所は、2024年度の運用開始を目指して着工しました。

同研究所では、環境に配慮した技術である植物由来のリグニンを利用したカーボンニュートラルなアスファルトコンクリートや、二酸化炭素を固着させたカーボン・プール・コンクリートなどの早期実用化を目指しています。また、敷地内の道路や駐車場に、太陽光発電舗装やネイチャーポジティブを考慮した緑化舗装を施し、持続可能な環境配慮型社会の実現を目指しています。

そして、幸手研究所で試験施工レベルまで開発された舗装技術の早期実装に向けて、実大規模レベルでの耐久性を実証することができる「大型実験走路」を福島県田村市に建設する予定です。

持続的成長に向けて

大成建設グループは2023年に創業150周年を迎えることができました。

現在、道路建設業界は、資材価格やエネルギー価格の高騰の影響を受け、厳しい状況にあるといえます。しかしながら、当社は未来を見据え、創業者の大倉喜八郎翁の諦めず前を向いて進む「進一層」の精神、そして「責任と信用」を第一に掲げ、今後も成長を続けてまいります。

引き続き、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。